

カルメル霊性センター（月刊）

2004（平成16年）4月号

2004. 4

霊性センターニュース

187号



7. ユース リトリート《カルメルの泉》 青年男女 大瀬高司師

(1) 5月1日(土) 16時～2日(日) 14時

\* 年間に何回か企画する予定ですので、その都度お知らせします。

8. 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからお越しください。どなたでも参加できます。

① 6月 7日(月) 20時～ 9日(水) 15時 新井延和師

② 10月25日(月) 20時～27日(水) 15時 新井延和師

③ 5月28日(金) 20時～30日(日) 15時

“わたしは神を観たい。”カルメルの霊性 Sr. 伊従信子

④ 11月19日(金) 20時～21日(日) 15時

“テレーズと共に祈る” Sr. 伊従信子

9. 待降節黙想会 チブリアノ師

12月3日(金) 夕食 ～ 5日(日) 15時



\* 電話でのお問い合わせは 午前9時～午後4時45分までをお願いします。

また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)担当 br 原

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

## [カルメルの靈性研究クラス]

\* 十字架の聖ヨハネ：「カルメル山登攀」

4月7日、4月28日、6月9日、6月23日、7月14日  
(4月7日は、第3部第13章～第17章を読みます。)

\* アヴィラの聖テレジア：「自叙伝」

3月31日、4月14日、5月12日、6月16日、6月30日、  
7月21日  
(3月31日は、第25章を読みます。)

どちらも水曜日、夜7：00より、上野毛教会信徒会館2階26号室  
でおこなわれます。

## [祈りの集い]

4月23日、5月28日、6月25日、7月23日、10月29日、  
11月26日、12月17日

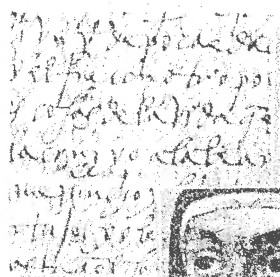
毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわ  
れます。何の準備も要りません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い（茶話会）

[靈性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期  
の参加も可能ですが、「カルメルの靈性研究クラス」の方は、なるべく  
継続して出席されることが望まれます。

担当：九里<sup>くのり</sup> 彰神父



# 2004年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

## 【聖書深読黙想会 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月24日(土)～25日(日)	新井延和神父	了
2月28日(土)～29日(日)	福田正範神父	了
4月24日(土)～25日(日)	中川博道神父	
5月29日(土)～30日(日)	福田正範神父	
6月26日(土)～27日(日)	奥村一郎神父	
7月24日(土)～25日(日)	福田正範神父	
9月 4日(土)～5日(日)	新井延和神父	
10月30日(土)～31日(日)	中川博道神父	
11月20日(土)～21日(日)	九里 彰神父	
12月11日(土)～12日(日)	奥村一郎神父	

## 【青年のための黙想】

・男女性のため	4月18日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士・カルメル宣教会
	10月17日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士・カルメル宣教会

## 【一般のための黙想】

・水曜の黙想	(午前10時から午後4時まで)	
1月 21日(水)	受肉の神秘	新井延和神父 了
2月11日(水)	イエスの祈り	アロイジオ神父 了
3月17日(水)	聖ヨセフ	福田正範神父 了
4月14日(水)	復活	新井延和神父
5月19日(水)	マリア様と共に	奥村一郎神父
6月16日(水)	聖 霊	長岡幸一神父
7月21日(水)	カルメルの祈り	新井延和神父
9月15日(水)	十字架の神秘	福田正範神父
10月13日(水)	アビラの聖テレジア	シスターベアトリス
11月17日(水)	諸聖人の通功	長岡幸一神父
12月15日(水)	十字架の聖ヨハネ	奥村一郎神父

・四旬節の黙想 3月6日(土)午後5時～7日(日)午後4時 福田正範神父 了

・待降節の黙想 12月4日(土)午後5時～5日(日)午後4時 中川博道神父

・聖テレーズの黙想 伊従信子氏  
9月30日(木)午後5時～10月1日(金)午後4時

## 【奉献生活者の黙想】 (午後5時集合/午前9時解散)

7月11日(日)～ 7月20日(火)	新井延和神父
8月 2日(月)～ 8月11日(水)	中川博道神父
8月16日(月)～ 8月25日(水)	福田正範神父
10月18日(月)～10月27日(水)	福田正範神父

その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法: -

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX あるいはハガキでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないことがあります。その際は、おそれいりますが、後日、改めてお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

# 「立ちどまって、ひといになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2004）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ 28:20）といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみたいはいかがでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについてイエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月12日（月）	「聖ルカに聞く（1）」	松田浩一	神父	了
第2回	2月11日（水）	「カルメル諸聖人の道」	大瀬高司	神父	了
第3回	3月23日（火）	「聖ルカに聞く（2）」	松田浩一	神父	了
第4回	4月29日（木）	「わたしたちの召命」	中川博道	神父	
第5回	5月25日（火）	「聖ルカに聞く（3）」	松田浩一	神父	
第6回	6月29日（火）	「恵みの梅雨」	松田浩一	神父	
第7回	7月19日（月）	「神の国への道標」	松田浩一	神父	
第8回	9月28日（火）	「聖ルカに聞く（4）」	松田浩一	神父	
第9回	10月11日（月）	「神の家族」	中川博道	神父	
第10回	11月23日（火）	「わたしたちの使命」	九里 彰	神父	

\*時間 いずれも AM10:00～PM4:00

\*場所 カトリック日比野教会（地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩5分）  
（駐車場は利用できません。）

\*費用 1,000円

\*持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当

\*定員 約15名

プログラム	10:00～	祈り
	10:45～	講話【1】
	12:00～12:45	昼食
	12:45～	ゆるしの秘跡または短い面接
	13:30～	講話【2】
	14:45～	ミサ
	15:30～	茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡または短い面接を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係（担当 松田浩一 神父）

FAX 052 [671] 1825、（お問合せ）TEL 052 [671] 1003

# 聖書深読センターのご案内

## 1. 聖書深読黙想会

① 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。（p.1）

② 宇治・・・宇治 〃 (p.5)

### ③ 名古屋

第一回	4/17（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父
第二回	5/22（土）～5/23	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父
第三回	10/2（土）～10/3	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父
第四回	11/6（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父

\*毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

\*原則として、定員21名とし、申込はファックスまたは葉書でお願いします。

\*コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全工程を行なう一泊二日コースがあります。

\*対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたで構いません。

連絡先：〒465-0058 愛知県名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

Tel/Fax：052-701-3685

### ④ 横浜

◎ 1泊2日 コース

月 日	場 所	指導司祭
3月16日（火）～17日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	大瀬高司師
5月19日（水）～20日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	九里 彰師
9月15日（水）～16日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	中川博道師
11月9日（火）～10日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	奥村一郎師

◎ 1日 コース

1月22日（木）	ザビエル・センター（横浜・滝之上）	九里 彰師
7月14日（水）	〃	大瀬高司師

連絡責任者 密本昌俊 TEL・FAX 045(621)5838

## 2. 通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

### (1) 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5の用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」、そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4月、7月、10月、1月に入れる）

継続 15,950円

講師：九里 彰師（奇数月） 新井延和（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

\*講師の変更：奥村一郎神父（奇数月）を九里神父が担当することになりました。

### (2) 谷口美智子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいは、その半分に記号、全、および思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解読はない。

費用：1回300円 年10回3千円

送り先：〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町98-412

谷口美智子

TBL & FAX: 075-821-0239

2004. 1/11（日）主の洗礼（ルカ. 3:15~16, 21~22）了

2/8（日）年間第五（ルカ. 5:1~11）了

3/14（日）四旬節3（ルカ. 13:1~9）了

## 3. ミニ深読

グループで、2, 3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光または、Sr. ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr. ベアトリスまでお願いします。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問合せ下さい。

所長 : 奥村一郎 神父  
事務局長 : 新井延和 神父  
連絡先 : シスター ベアトリス  
〒611-0002  
京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)  
tel: 0774-32-7016  
fax: 0774-38-2543  
e-mail: [carmis@mbbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbbox.kyoto-inet.or.jp)

---

## 2004年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場所 : カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

		ご指導
日程 : 6 / 17 (木) 夕食	~ 6 / 20 (日)	チプリアノ神父様
9 / 7 (火) 夕食	~ 9 / 10 (金)	アロイジオ "
10 / 14 (木) 夕食	~ 10 / 17 (日)	中川 博道 "
11 / 9 (火) 夕食	~ 11 / 12 (金)	九里 彰 "

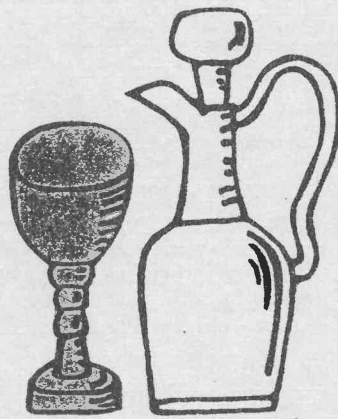
☆ 空きがある場合には、一般の方でも参加できます。

☆ お申し込み、お問い合わせは下記まで。

TEL・FAX 03-3892-1378 (阿部 昌子)



心の泉





## 光の神秘（第4の神秘）

イエス、タボール山で栄光の姿を現す

チプリアノ・ボンタッキョ神父

「変容は、すぐれた意味で、光の秘義だということができます。伝承によると、これはタボール山で起きた出来事です。神の栄光がキリストのみ顔から輝き出たので、弟子たちが我を忘れていて、彼らに向かって御父が“これに聞け”（ルカ 9,35）と命じられます。それはキリストとともに苦しみを味わうように弟子たちを前もって備えさせ、ゆくゆくは彼らがキリストとともに復活にあずかり、聖霊によって新たないのちに変えられるためでした」（おとめマリアのロザリオ NO.21）

確かに、“光の神秘”の中で、変容の神秘はキリストのお顔の輝きを一番表しているものです。この体験は三人の弟子の信仰を固めるために与えられた大きな恵みでした。

変容の数日前に、ペトロは、イエスに対して、すでに立派な信仰を表明したばかりでした。「あなたはメシア、生ける神の子です」（マタイ 16,16）。しかしながら、そのときペトロはイエスの身に降りかかることになっていた十字架の悲劇を予想していませんでした。そのために、ペトロの信仰告白を聞いた直ぐ後にイエスが最初の受難の予告をされたとき、弟子たちは大きな衝撃を受けました（マタイ 16,21…）。そのときペトロは「イエスを脇へお連れして、いさめはじめた。主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」（マタイ16,22）と。

そこで、弟子たちにとって、復活に達するために受難を受け入れることがよぎなくされていることを知る必要があったので、イエスは彼らの中の三人を連れて山に登り、一時復活の栄光を現されたのです。三共観福音書（マタイ17,1…マルコ 9,2…ルカ 9,28）にしたがって、そのときの次第を思い出しましょう。

「イエスの姿は彼らの目の前で変わり、服は真っ白に輝き、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。エリアがモーゼと共に栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最後について話していた…ペトロが口をはさんでイエスに言った。先生、私たちがここにいることはすばらしいことです。……すると雲が現れて彼らをおおい、雲の中から声がした。これは私の愛する子、これに聞け」。

さて、この秘義を黙想するとき、特に注目したいところは次のとおりです。

- 1) 聖トマスがいうように、変容のときに三位一体の神が現存しておられました。雲の中から聞こえた声は御父の声で、雲は聖霊の象徴でした。
- 2) 変容のときのイエスの輝きは復活体の輝きを示すものです。
- 3) 旧約時代を代表するモーゼ（律法）とエリア（預言者）をとおして、イエスの受難がすでに預言されていました。（イザヤ 53,1 …）
- 4) 人となって、すべての人の罪を背負っておられた神の子イエスが受難をとおして栄光に入られたように、私たちも栄光に入りたいなら、自分の中にある罪と戦い、苦しみを伴う戦いの道を歩まなければならないということ。
- 5) 雲からの「これは、私の愛する子、私の心にかなう者」という声はイエスが示してくださった道を歩むことをとおして栄光に到達することを諭してくださいました。
- 6) さらに、十字架の聖ヨハネの上記のお言葉の解説を思い出します(2登攀 22章参照)。すなわち、御父は“肉となったみことば”イエスをとおして、またイエスのうちにご自身のこと、すべてを一同に語られ、もはやなにも話すことをお持ちにならないということ。
- 7) ペトロは、イエスの輝かしいお姿を見て、いつまでもそこにとどまりたいと思って、そのことを願いました。ところが、その願いに応えて御父は雲の中からの声で、自分の十字架を受け入れて、イエスにつき従うように諭されました。つまり、「イエスのうちに、自分の喜びと慰めとを探し求めるのではなく、キリストを愛して、その苦しみと死を、自分の生活の中に受け入れていかなければならないということ」(2登攀 7,12)です。

尚、この神秘を黙想するときに、マリアの取り次ぎによって、特に祈りたい恵みは、復活信仰を増していただくように、また日々の十字架を受入れ、それを、忍耐強く、イエスとともに、担いでいくことができるように。

断想 (190)

COMFORT

*In the silence, I hear You:*

*You speak to me in the void:*

*In the nothingness and the emptiness, You are there:*

*When there is none beside me, I feel Your Hand in mine:*

*You fill my heart when it is empty:*

*You warm me when all other fires have failed:*

*You are the Presence that cannot be known except in Absence:*



沈黙のうちに わたしは あなたに聞く

虚無のうちに あなたは わたしに語る

虚空 そこに あなたはいる

誰もわたしの傍にいないとき

わたしの手の中に あなたの手があることを 感じとる

心に何もないうとき そのわたしの心をあなたは充たす

すべての火が消え失せたとき あなたはわたしをあたためる

不在による現存 それのみが あなたを知る道

(奥村 一郎)

## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(65)

### 復活したキリストと出会うこと

イエスが復活後、弟子たちに現れた時、自分は幽霊ではなく、彼らが師として友として慕っていた当人に他ならないことを納得させました。恐れおののき、疑いの心を抱いている友たちに向かって、イエスは言いました。「私の手や足を見なさい。まさしく私だ。触ってよく見なさい」(ルカ 24:39)。そして彼らに何か食べるものはないかとたずね、その後、三度目に現れた時には、彼らにパンと魚の朝食を準備しました(ルカ 24:42-43 とヨハネ 21:12-14 参照のこと)。

しかしイエスは、自分の体がもはや自然法則に従っていない新しい霊的な体であることも彼らに示しました。弟子たちが集まっていた部屋の戸がみな閉じられていたにもかかわらず、イエスは入ってきて、彼らの間に立ちました(ヨハネ 20:19 参照のこと)。彼が朝食を準備した時には、だれもあえて「あなたはどなたですか」とたずねませんでした。彼らは、それが彼らの主であり師であることを知りつつも、彼がもはやこの世には属していないことも知っていました(ヨハネ 21:12 参照のこと)。彼らを待ち受けている復活の生命を啓示したのは、まさにこの復活したイエスの体験なのです。私たちの人生には、私たちに約束された新しい生命を示唆するような体験があるのでしょうか。

(1201)

### 人生のジレンマ

私たちは、復活したキリストと共にいることを望んでいるのでしょうか。私たちの多くは、この新しい命を待ち受けているのではなく、死すべき命をできる限り長引かそうとあらゆる手立てを尽くしているように見えます。とはいえ、私たちが霊的生活の中へ、すなわち復活した主との交わりの生活へより深く入っていくにつれて、私たちは徐々に、死の門を通過して、キリストとの永遠の命へ移行してゆきたいという望みを持つようになります。これは、死を望むことではなく、あらゆる望みが達成されるであろうという望みです。パウロは、この望みを強く体験し、こう書いています。「私にとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです。…私は二つのことの間で、板ばさみの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。だが他方では、肉にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です」(フィリ 1:21-24)。これは、私たちのほとんどは持っていないディレンマですが、霊的葛藤の核心を露わにしてくれています。

(1202)

くのり  
九里 彰訳

## 受難の主日

## キレネのシモン

(ルカ 23 : 1 ~ 49)

ピラトがイエスに死刑の判決を下し、人々がイエスをゴルゴタに引いて行く途中、田舎から出てきたシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後から運ばせました。地方から祭りのために出てきていて、偶然囚人の行列に出合ったのでしょう。エルサレムの通りはひどく狭いもので、ローマ兵に呼び止められたシモンは逃げることもできなかつたことでしょう。十字架を担げという命令を断ることはできませんでした。ローマの支配下にあったからです。拒否すれば罰せられたことでしょう。ローマ兵が彼を選んだのは彼がたくましかったからだと思います。昨晚からの緊張と鞭打ちで体力が尽きかけたイエスの代わりに彼が十字架を担って刑場に向かいます。

キレネのシモンはイエスのすぐそばを歩きましたから、イエスの生涯の最期を求めずして目撃することができました。イエスが苦しい息の中から女たちに、「私のために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。」と語るのを聞きました。またゴルゴタに着いて、十字架を担ぐ役目から解放されてもおそらくすぐにはそこを去らず、イエスに行なわれることをみていたはずで、彼も多分イエスの噂は聞いていたでしょう。死んで四日もたった死者を甦らせた預言者がエルサレムにやって来たと聞いていたでしょう。そしてイエスと一緒に歩く途中にこの囚人があの預言者だと気づいたはずで、イエスが何か奇跡を行なってこの場を脱出するかもしれない、見てやろうという好奇心もあったかもしれません。

しかしイエスは何の奇跡も行なわず、ただ黙々と耐えているだけでした。そのありさまは屠り場に引かれていく小羊のようでした。イエスと共に十字架につけられた二人はなんと違っていたことでしょう。二人は十字架に釘づけられるとき、全力で抵抗し、最後の1秒まで生き延びる可能性を見出そうとする執念が見えました。彼らは十字架が立てられてからも色々わめいていたでしょう。シモンはそれまで十字架刑を見たことがなかつたかもしれませんが、十字架につけられた人がさまざまなろい言葉を吐きながら死んでいくということは知っていたはずで、イエスが少しも取り乱さず、かえって自分を殺そうとする人たちの許しを祈ったり、悔い改めた盗賊に対して「今日あなたは私と共に楽園にいる」と慰めの言葉をかけるのを聞き、ただ驚くばかりだったでしょう。百人隊長のように「本当にこの人は正しい人だ」と思い、こんな義人がなぜ殺されなければならないのかと胸を打ちながら家に帰ったことでしょう。

この体験があつたから、イエスが復活したと聞いたときシモンはすぐに信じ、弟子たちの群れに加わつたことでしょう。そして息子たちも父に続きました。マルコ 15 : 21 に二人の息子の名前が出ていますが、そのうちのルフォスは、ローマ人への手紙 16 : 13 に出る「主に結ばれている選ばれた者ルフォス」と同一人物だと言われています。死刑囚の十字架を担うという、災難と思つた行為が実は大きな幸いだったので、

(新井)

## 御復活

「私は甦った。またあなたと共にいる。」

イエスが今また私たちと共におられ、いつもおられ、私たちを一人ぼっちにすることは決してない事を忘れないようにしましょう。今日私たちはキリスト教的生活の目標に到達します。人類の何千年もの歴史の中で、究極的解放への希望と望み、また平和と喜び、そして愛の完成がキリストにおいて頂点に達するように、私たちの希望と望みも今日、キリストの勝利によって頂点に達します。イエスの復活は、人間の心の最も深い望みの究極的完成です。私たちは生きる神、喜びと平和と愛と真理の完成を切望しています。御復活は春であり、春は新しい命をもたらします。それは希望の時、いつも未来を、収穫を、再創造され刷新された世界を指し示す時です。

主イエスの受肉、死、復活は私たちに対する愛の偉大な証明です。神的愛のこの行為の当然の帰結として、私たちが極度の愚かさから神の提供を拒まない限り、死から終わることのない幸福と栄光へと復活することが私たちに保証されています。でもまず死ななければ復活はありえません。私たちの利己的な道に死ぬこと、これは隣人を軽率に判断しないように、不親切な言葉を言わないように細心の注意を払うとき、また辛くても誰かに手を差し伸べるとき、他人の幸福を自分の幸福に優先させるときなどにできるものですが、ここにあげた簡単な例でもいずれも大きな勇気が必要とします。それはまた、キリストが私たちの人生において徐々にしかし効果的に勝利を収めている確かなしるしです。これらすべてが私たちのキリスト教的生活を形作ります。人に善をすることが第二の天性にならなければなりません。「これらのキリスト者たちはなんと愛し合っていることか」と初期のキリスト者たちは言われたものですが、私たちもこう言われなければなりません。そうやって始めてイエスが私たちの生活の中で甦られたと言えます。そうやって初めて私たちの生活が、周りの人々に対して本当に新しい、異なったものとなり、驚くべきものとさえなるのです。

空の墓は、ヨハネにとってイエスが甦られたのを見る前でさえ、雄弁に語るしるしでした。それはヨハネがしるしの意味を解き明かす聖霊に身を委ねていたからです。同じようなことがわたしたちの人生でも出来事として起こります。聖霊に照らされ、神の言葉を黙想することによって得られる光を投げかけることによってのみ、出来事の意味を深く理解することができます。

御復活の良き知らせは、甦りの力を分け与えられるのに死ぬまで待つ必要がないということです。今すぐ始めることができます。御復活は私たちの心を甦られたキリストに開くように、そしてキリストに私たちを変えていただくように招きます。私たちの愛が拒絶された後も再び愛するように招きます。キリストが死に打ち克たれたのですから、私たちの地上の死にもう恐れはありません。死は終わりではなく、本当の生の始まりです。地上の死の後、始めて私たちは本当に生き始めるのです。

(Beatrice)



## 復活節第2主日

## 使徒トマス

(ヨハネ20:28)

主が弟子たちに現れた時トマスだけがいないくて、弟子たちが「私たちは主を見た」といっても、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、またこの手をそのわき腹に入れてみなければ、私は決して信じない。」と言い張りました。なぜトマスはこれほど頑なになったのでしょうか。

トマスはおそらく人間は死ねばおしまいだと考えていたのでしょうか。これは旧約聖書に何度も出てくる考え方で、こう考えるのもあながち批判できません。また弟子たちが主の復活を見たというけれど、奇跡が起こるならどうしてゲッセマネで逮捕されてから十字架で死ぬまでに起こらなかったのか、トマスには合点が行かなかったのでしょうか。ナザレで群衆に崖から突き落とされそうになったとき、主は不思議にも群衆の真中を通して立ち去られたではないか。あの時天使の目に見えない守護があったに違いない。それなのになぜ今回はなかったのか。また主は湖の上を歩くこともおできになった。だから空中に体を浮かせて逃れることだってできたはずではないか。どうして奇跡をなさらなかったのだろうか。それはもしかしたら主の弱さ、限界だったのではないか。一般の民衆の前ではあれほど色々な奇跡を行なった主も、大祭司やローマの力の前には無力だった。ペトロたちは主が甦ったと言うが、それではなぜまたいなくなってしまったのか。主に生きていてもらいたいという願望が生み出した幻想ではないのか。トマスはこのように考えたことでしょう。

またこうも考えたでしょう。ベタニヤでマリアが主に注いだナルドの香油は三百デナリオンで売れたはずだが、三百デナリオンあればあるいは牢の役人を買収して主を逃すことも出来たのではないか。どうも主はあまりにも天使的で、地上を生きる知恵に欠けていたのではないのか。主の説かれた、敵をも愛する美しい愛の教えも、それを支える地上的知恵が必要なのではないのか。主御自身鳩のように素直で、蛇のようにさとくあれと仰ったでないか。愛とはかくも弱く、はかないものである。愛の一瞬のひらめきを永遠に留めておくには、地上的知恵とある程度の奇跡を用いなければならないのに、主は残念ながらバランスを欠いていたのではないか。奇跡をもっとうまく活用すべきだった。彼が復活した主に出会うまでこう考えていたのではないかと思います。

主が現れ、手とわき腹の傷をお示しになった時、トマスは一瞬にして悟ったのでした。主が自分を含む罪人のために死なれたことを、主の逮捕された時に逃げてしまった弱い自分を主が赦してくださっていることを、そして主の十字架こそ贖いであり、愛を永遠に留めるものであって、復活はこの世を超えた生を示しているのだと悟ったのです。主の十字架と復活は神の力が何者にも負けないことを示しています。またこの世の知恵をはるかに超える神の知恵がそこに光り輝いているのです。目の前に勝利された主を見て、トマスはひれ伏し、喜びに震えながら「我が主よ、我が神よ」と言うしかありませんでした。それはイエスが神であることを公に言い表した最初の信仰告白となりました。

(新井)

## 復活節第3主日

イエスは使徒たちのために朝食を用意し、ペトロに三度「私を愛するか」と尋ねる

この朗読に見られる伝統は、甦られた主が物語るヨハネの見方で、弟子たちに言いたいことを示しています。それは同時に私たちに語りかけていますが、弟子たちのように私たちはしばしば気づきません。食事は共にいることを象徴しています。私たちが御聖体を主と分かち合うとき、主をよりよく知り、愛するべきです。聖体祭儀の間、私たちはお互いの中に主を認め合う一つの家族として寄り集めます。

今日の福音の中でイエスはペトロに「私を愛するか」と三度尋ねます。この質問が私たちになされたら、喜んで「主よ、あなたは何もかもご存知です。私があなを愛していることをあなたはご存知です。」と言いたいものです。これは心からの返事であり、イエスが聞きたいとお思いの返答であり、イエスが「ついて来なさい」と仰るとき、彼に従うことを可能にする唯一のものです。愛がイエスに務めをもたらすと私たちはわかっています。イエスは「私を愛するなら、私の群れの羊と小羊の世話に命を捧げなさい」と言われます。イエスを愛していることを証明するのは、他人を愛することによってしかありません。愛はこの世で最大の特権ですが、最大の責任を伴います。

初期のキリスト者はペトロに教会の生きた頭を見ました。キリストの代理です。ペトロに従うことを拒んだキリスト者もいましたが、誰もペトロの特権を自分が受け継いでいるとは主張しませんでした。キリストが世に救いをもたらすために創設された社会である教会は、地上で目に見える頭が必要であり、キリストご自身が地上におられなくても大丈夫なようにあらかじめ配慮なさっていました。ペトロに与えられた鍵の権能は、ペトロの時代よりその後の世代の方がより必要としました。他の使徒がまだ生きていたとき、キリストは岩の上に教会をお立てになりました。教会がある限り永続する岩です。ペトロは死にましたが、ペトロの職務は最後の人が天国に行くまで続きます。21世紀の羊である私たちも1世紀のキリスト者と同じように世話と保護を必要とします。救い主であり、良き牧者であるキリストがいつも必要なものを与えてくださいます。

私たちのキリスト教的な生活において欠けているものは、信仰の深い評価、キリストに対するより真摯な愛、そして隣人に対する大きな関心です。聖ペトロにもっと倣い、キリストを真心から愛し、仕えるようにしましょう。救い主キリストを敬虔で真摯なキリスト教的な生活で宣べ伝えましょう。各人が教会で果たすべき役割を持っていて、それは仲間の兄弟の信仰を強める助けをします。たとえ命を落とすことになっても、信仰のために立ち、常に信仰を守る勇気を持ちましょう。

(Beatrice)

## 《神道 (3)》

～自然について～

神社に行くと、どことなく張りつめたすがすがしい気持ちになります。これは、世間の喧噪から離れ、心静かに落ち着いて祈る雰囲気漂っているからだと思います。その大きな要因となっているのが鎮守の森でしょう。どの神社でも、特別な理由がない限り、木が植えられています。特に大きな神社になれば、お社(やしろ)が木に埋没するぐらいのうっそうとした茂みに覆われています。この森が、わたしたちを落ち着かせ、世間とは何か違った落ち着いた祈る雰囲気を醸し出しているのだと思います。

この木々を中心とした自然を大切にしたのは、緑の木々が生い茂る森や山を神がいらっしゃる「神奈備山(かんなびやま)」あるいは、「神体山」と拝み、また木々を神々が降臨なさる「依代(よりしろ)」とか「神籬(ひもろぎ)」として神聖視してきたからです。「日本人の自然観・宗教観の根底には、神と山・神と森・神と木が分かちがたく、離れがたく結びついている」(「日本神道入門」p34)といわれています。

また神社は、元来「神の杜」を意味する言葉だそうです。そして、古代人にとって「モリ」というのは、神々の霊がこもる「神々の杜」であり、人間がみだりに足を踏み入れてはならない守るべき「神々の領域」であったといわれています。このことから、神社には、神々がこもる「神社の森」や「鎮守の森」があり、木々を大切にしてきたのです。

この精神は、今の世の中にとって、とても大切な宗教心ではないかと思います。今の世の中、身近にいらっしゃる神様のことを忘れ、人間が何でもできる全知全能者のように振る舞っています。ですから、あちらこちらの自然は破壊され、大きな環境問題となっています。

キリスト教においても以前は、この地上のものは神様からいただいたもので、何をしてもかまわないという風潮がありました。しかし、現代においては、教皇様のメッセージ\*1 などからもわかるように、この世の被造物は、神様からわたしたち人間に対して管理権を与えられたものであって、けっしてわたしたちが自由に扱って良いものではありません。神様の望みに従って使用し、最終的には、全てを良い状態にして神様に返さなければならないのです。

わたしたち日本人は、昔からいろんな方法や決まり事を作り、自然を守ってきました。その根底にあるのが、全てのものには神様が宿っており、神様からいただいたものという考え方です。この考え方は、わたしたちキリスト者にも共感できる部分です。もっと、神様からいただいたものを感謝し、大切に使うようにしたいものです。

\*1 回勅「真の開発とは」(1988年)

「環境問題について」(社会司教委員会)(1992年10月4日)など参照

## (参考文献)

「日本神道入門」 本田総一郎著 日本文芸社 1985年初版 1990年15版

## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 2. 預言者エリシャ (850B.C.)

エリシャも、エリヤと同時代にカルメル山で生活していました。彼は、祈りの人として知られており、人々は取り次ぎの祈りを願って彼のもとに來たようです。エリヤは、エリシャを自分の後継者として、油を注いで聖別するようにと主に命じられていました。エリシャがエリヤの後に従い、エリヤが天に上げられることになる場所に着いたとき、彼はエリヤの靈の二つの分を受け継がせてくれるよう願いました。エリヤは、自分がエリシャのもとから取り去られるのを見れば、その願いはかなえられるであろうと、エリシャに告げました。列王記下の2章1節～18節からも分かるように、彼はエリヤの後継者となりました。彼はエリヤが火の戦車で嵐の中を天に上っていくのを見たのです。これを見て、彼は自分の衣を取り、二つに引き裂きました。そしてエリヤの外套を取り、それで水を打つと、水は二つに分かれたので、その間を渡ることができました。これを見ていた人々は、地にひれ伏し、彼をエリヤの後継者として認めました。彼のつとめは、いまだにバアルに従っていた人々にヤーウエの眞実を伝えることでした。記録にのこっている彼の祈りは、数少なく単純なものです。それらは、エリヤの祈りに見られたのと同じ信頼を表しています。

---

### 祈り

「エリヤの神、主はどこにおられますか。」(列王記下 2:14)

「主はこう言われる。『わたしはこの水を清めた。もはやここから死も不毛も起らない』」(列王記下 2:21)

「主よ、彼らの目を開いて、見えるようにしてください。」(列王記下 6:17)

「この異邦の民を打って目をくらましてください。」(列王記下 6:18)

「主よ、彼らの目を見えるようにしてください。」(列王記下6:20)



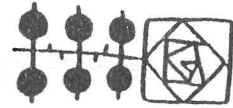
エリヤが天に上げられるとき、  
エリシャはエリヤの外套を受ける

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites ( Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com> ) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)



### 今の時をみつめて

初めからのことを思い出すな。昔のことを思いめぐらすな。  
見よ、新しいことをわたしは行なう。(イザヤ43・18-19)

バビロンに捕囚されていたイスラエルの民は、かつての輝かしい時代を郷愁の念をもって思い起こしていました。それは、自分たちの先祖のために神が力強く介入され、エジプトの奴隷状態から解放して下さった時のことです。イスラエルの民は「もう神はモーセのような人物を送ってはくださらない、過去のような偉業も行なってはくださらないだろう。自分たちはいつまでも、この異国の地にとどまらねばならないのだ」と考えてしまう誘惑にかられていました。

しかし紀元前 539 年、ペルシャ王キュロスにより、イスラエルの民は解放され、彼らは約束の地に向って帰ることができました。こうして出エジプトよりもさらにすばらしい出来事が実現したのです。

神は二度同じことを繰り返されません。過去に成し遂げられたことよりも一層偉大なこと、人間には想像もできないことを、神は愛によって成就されます。それゆえ神は、預言者イザヤの口を通して、次のように招かれます。

初めからのことを思い出すな。昔のことを思いめぐらすな。  
見よ、新しいことをわたしは言う。

イザヤは、預言者の最後の箇所、かつてないほど光り輝く未来、すなわち新しい天と新しい地の創造について告げています。神が成就されるのはあまりにも偉大なことなので、「初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない」(\*1)と。

後に使徒パウロも、イザヤの言葉を用いながら、想像を越える形で神が人間の歴史に介入されたことを語ります。すなわち神は、御子イエスの死と復活を通して、人間を新たにされ、御子によって、私たちを新たな命に生み出してくださいました。(\*2)

そして、ヨハネの黙示録では、歴史の終わりに、神が「見よ、わたしは万物を新しくする」(\*3)と言われ、宇宙全体が新たにされることが告げられています。このように、イザヤの言葉は、聖書全体に及ぶものですが、こんにちもなお、私たちに語っています。

初めからのことを思い出すな。昔のことを思いめぐらすな。  
見よ、新しいことをわたしは行なう。

私たちは、神が生み出された「新しいこと」「新たな創造の業」です。み言葉とすべての賜物を通して、私たちが御子を自らの内に迎え入れることにより、神は私たちの存在と行動を新たにされました。ですから、イエスご自身が私たちの中で生き、働かれるのです。家庭や学校、職場などで、私たちが他の人と築く関係を新たにされるのはイエスです。また私たちを通して、社会生活や、文化・娯楽・医療・経済・政治分野など、私たちが生きている生活の場すべて、新たにしてくださるのも、イエスです。

ですから、過去を見つめて、以前あったすばらしいことを未練がましく思い出したり、昔の自分の過ちを嘆いて涙するのは、やめましょう。むしろ、「新しいこと」を行ない続けておられる神の働きを、強く信じるよう努めましょう。

神は私たちに、いつもやり直すチャンスを与えてくださいます。私たちが過去に左右されず、過去の重荷から解放されるようにしてくださるのです。こうして私たちの生活はシンプルになり、重苦しさはなくなって、より純粹で新鮮なものになるでしょう。私たちも使徒パウロのように、過去にとらわれることなく、キリストに向かい、あふれる命と喜びに向って自由に走っていくことができるでしょう。

(＊4)

初めからのことを思い出すな。昔のことをおもいめぐらすな。  
見よ、新しいことをわたしは行なう。

では、このみ言葉を生きるには、どうすればいいでしょうか。日々の生活の中で、その時その時に神が私たちに望まれること(勉強や仕事、子供の世話、また、祈りや遊ぶことの場合もあるかもしれませんが)、愛をもって果たすよう努めましょう。またその瞬間のみ旨でないことは、すべて切り捨てるようにしましょう。これによって、神が私たちの中や私たちの周りでなされたいことにたいして柔軟でいられますし、神が毎瞬間いつも与えてくださる特別な恵みを、受け取る準備ができていることになります。

このように生き、一つ一つの行いを「あなたのために」と言って、神に捧げるなら、イエスご自身が、過ぎ去ることのない業をいつも果たしてくださるでしょう。

キアラ・ルービック

\* 1 イザヤ65・17

\* 2 ニコリント5・17参照

\* 3 ヨハネの黙示録21・5

\* 4 フィリピ3-4参照

フォコラーレ・センター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.(03)5370-6424 FAX.(03)5370-3055

E-mail. fokolare@sa.uno.ne.jp

## よわさ

喫茶店で、お茶を呑んでいた時のことです。わたしの隣の席に、20歳ぐらいの女性が二人座って話していました。

しばらくして、おじいさんが、ヨタヨタと、お盆の上に、お茶や食べ物載せてやって来て、彼女達の隣の席に座りました。彼女達は、このおじいさんを見て嫌な顔をして、汚い物にするように、顔を背ける仕草をして、クスクスと笑い始めました。笑いものにされているこのおじいさんは、耳が遠いのか、全く気づかない様子です。わたしは、彼女達に何も言えませんでした。正直言って、言う勇気がなかったのです。怖かったのです。

彼女達が行ってしまった後で、このおじいさんを見ると、彼は、お茶の入ったペットボトルを開けようとしています。ボトルのふたを何度かひねるけれども上手く開かないようです。「開けましょうか？」と声をかけてみました。おじいさんは、わたしを見ました。何とも言えない、優しい澄んだ目なざしが、わたしの心に沁みました。おじいさんは、赤ちゃんのような微笑みを浮かべて言いました。「ありがとうございます。大丈夫です。」ボトルのふたは、既に、開いていたようです。

その後、帰宅してからも、あのおじいさんの、きれいな優しい目なざしと微笑みが、ずっと、わたしの心に残っていました。何処かで見たような、誰かに似ているような気がしたのです。そう・・・それはイエス様でした。唾をかけられ、辱められたイエス様の面影を、笑いものにされたあのおじいさんに垣間見たような気がしたのです。

どうして、わたしは、あのおじいさんをかばうことも出来ず、ただ黙って見ていたのだろうか？自分が情けなくて、涙がこぼれて来ました。泣きながら、部屋にある十字架を手にとって、イエス様に言いました。

「イエス様、ごめんなさい。わたしは、傷つくのも、蔑まれるのも、怖いんです。ごめんなさい。でも、わたし、あなたを、愛してるんです、愛したいんです・・・。」

丸山知佳子

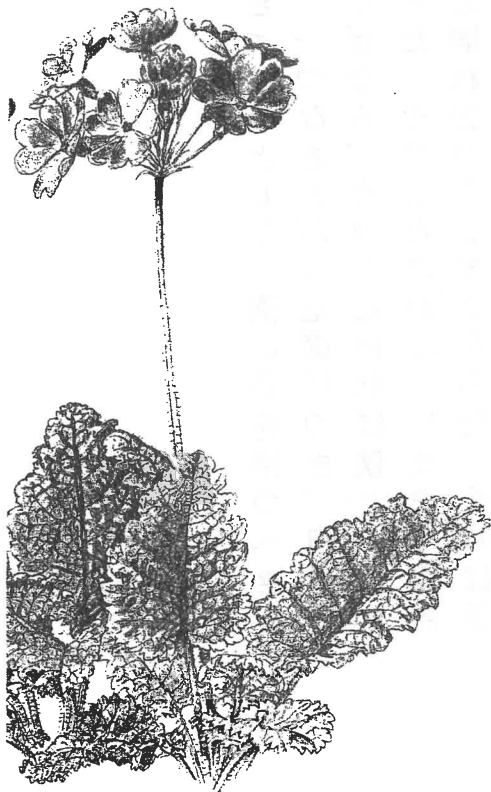


## 自らにいう

思い悩むのはよくない。きっぱりとした、潔い心を持つべきだ。清らかな愛で愛すべきだ。一つひきさがった席につき、自分の榮譽を求めてはならぬ。なぜなら、そうしなければ僕というものが、生きていかないからだ。そうしなければ、いままで築き上げたものが、ガラガラと崩れ去ってしまうからだ。それは苦しいギリギリの選択なのだ。思い悩むのは、自らのためによくはない。

蛭田 幼一

サクラ草ニ  
春ノ雨雪  
全ハマタ  
ハジマル



## “Cammino con Te”

Dammi la forza,  
o mio Signore,  
di percorrere la tua strada a passi sicuri,  
lenti, non veloci,  
affinché possa contemplare le Tue meraviglie.  
Dammi il coraggio di gridare “no”  
a chi tenta la mia fede;  
il coraggio di allontanare  
chi provoca male.  
La Tua strada è così ampia.....  
ad ogni passo trovo amico.  
Quanto sei generoso, o mio Signore;  
non temo le fatiche e le Tue prove;  
ma dimmi, quando potrò vedere il Tuo Volto?  
Con gioia cammino con Te  
verso di Te.

Marco Maffezzoli

## “貴方とともに歩みます”

力を与えて下さい、  
私の主よ、  
貴方の道を確認な、  
ゆっくりな、急がない足どりで歩き、  
貴方の素晴らしい御業を心ゆくまで味わえるように。  
私の信仰を脅かすものに  
「いいえ」と叫ぶ事のできる勇気を与えて下さい；  
私に悪をもたらす者から  
遠ざかる勇気を与えて下さい。  
貴方の道はこんなにも豊かで・・・  
一歩毎に友にめぐりあいます。  
私の主よ、貴方はなんと寛容なのでしょう；  
困難も貴方からの試練も私は恐れませんが；  
でも、いつ貴方のお顔を見る事が出来るのでしょうか？  
喜びとともに貴方と歩みます  
貴方の方へ。

マルコ・マッフェッツォーリ (浅野菜生子訳)

## ◇“Cammino con Te(貴方とともに歩みます)”作者

<Marco Maffezzoli (1971-1998) プロフィール>

マルコ・マッフェッツォーリ、1971年6月8日イタリアの Mantova に生まれる。幼少期をピエトロ・ディ・ヴィルジーリオで過した後、3歳の時にブスコルドへ移り、初等・中等教育を受ける。

Mantova のスパニョーリ高校を卒業後、パルマ大学法学部に入学。

勉学はもとより、幅広い分野に関心を持ち、音楽・絵画・詩学・映画・芸術一般、そして特に哲学と考古学は彼の中心となっていた。趣味も多く、サッカー(これは少年サッカーの審判資格を取得し、その分野でも活動していた)、ビリヤード、自転車、フェラーリなどの自動車模型制作にまで及んだ。

1998年9月、映画撮影の為の技術スタッフとして、「鏡の中の愛」(伊題“Amor nello specchio”)の撮影に参加。彼にとっておそらくその後の進む「道」となったであろう、この素晴らしい環境を得てからまもない同年10月8日、サッピオネータ (Mantova・パルマ間にある一都市) での撮影を終え帰宅中に自動車事故に遭い、脳死と判定され、「息子がここで口を利けたなら、きっとイエスと言うだろう」と、ご家族は臓器提供を決断。2日後の10月10日、心臓・肝臓・腎臓・角膜が6人の人に無事移植された。

## ◇出典

『Lungomare di comete』

出版社 Edizioni il Dialogo

出版年 1999

出版都市 Mantova

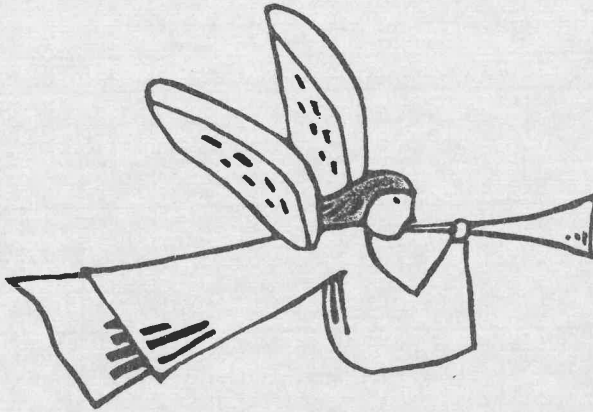
## ◇翻訳と紹介

<浅野 菜生子>

東京生まれ。ピアニスト。オペラ・声楽・オーケストラの仕事を中心として、日本及びイタリアで活動している。2003年の復活祭に受洗。

洗礼名 Viviana (ヴィヴィアーナ)。

## 諸々の企画案内



ノートルダム・ド・ヴィ

風 の 家

スズランハウス

瞑想 の 家

三位一体の聖体宣教女会

真命山靈性交流センター

マリアの御心会

心のいほり、内観瞑想センター

リーゼンフバー講座

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

聖心会黙想の家

京都教区聖書委員会（聖書深読）



## 諸所の企画についてのご紹介

### ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247  
Fax(03)3594-2254

#### \* 祈りの集い・いのちの泉へ

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

2004. 3月27日(土) 新しい生命を生きるために  
— 洗礼による神とのかかわり —

4月17日(土) 神に触れる：信仰の力

5月15日(土) 愛の生ける炎：聖霊に導かれて

6月5日(土) いのちのパン：聖体に養われて

講話：伊従信子・片山はるひ(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

時間：午後2時から(プログラム、修了時間は日によって異なりますので  
事前にお問い合わせ下さい)

#### 問い合わせ・申し込み

T e l ( 0 3 ) 3 5 9 4 - 2 2 4 7

(電話は夕方6時～夜9の間をお願いします)

F a x ( 0 3 ) 3 5 9 4 - 2 2 5 4

(F a x 送信は何時でも結構です) 又は郵便で

### 風 の 家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『<sup>フネマ</sup>風』編集者

\* 新住所：〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### ズランハウス : 責任者・井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細については電話で問い合わせして下さい。

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

## マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

J R 信濃町駅下車徒歩2分

\* 問い合わせ・申し込み：TEL. 03-3351-0297 : FAX. 03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」プログラム

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

2004年度	テーマ	指導者
4/25 (日)	わたしはあなたを名で呼んだ (イザヤ43. 1)	竹内修一師
5/23 (日)	貧しい人の母、アデライド・シセ	サリ・A・タラペル師
6/27 (日)	霊操による祈り一日 (上石神委井黙想の家)	瀬本正之師
7/25 (日)	信徒の宣教	竹内燐太郎師
8/6 (日)	キリストの生き方とわたしの生き方 (長野県富士見高原黙想の家)	栄 隆一師
9/26 (日)	一致・交わり・共同体	松井紀直師
10/24 (日)	マリアの7つのことば	ヌエル・エルナンデス師
11/28 (日)	霊の識別	ティエリ・j・ロボアム師
12/19 (日)	星に導かれて	ジャン・クロード・ホレリッヒ師
2005年度		
1/23 (日)	聖体に現存するキリスト	森 一弘司教
2/20 (日)	わたしの内に、巣くう社会の歪み	下川雅嗣師
3/20 (日)	毎日の生活の中に神を探す	加藤信也師

## 『心のいほり』

『内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

\* TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

\* 活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

\* 希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

\* 2004.

4/18 (日) 2時~4/24 (土) 2時まで横浜・戸塚

5/9 (日) 4時~5/15 (土) 2時まで京都・竜安寺

5/24 (月) 2時~5/29 (土) 2時まで盛岡・白百合

6/2 (水) 2時~6/8 (火) 2時まで横浜・戸塚

6/20 (日) 2時~6/26 (土) 2時まで兵庫・宝塚売布

7/5 (月) 2時~7/11 (日) 2時まで横浜・戸塚

7/18 (日) 2時~7/24 (土) 2時まで沖縄・クララ修道院



三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年

「聖書で祈る」：指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2004, 2月21日（土）5:30pm～22（日）4:00pm 了

6月26日（土）5:30pm～27（日）4:00pm

11月27日（土）" 28（日）"

2005, 2月26日（土）" 27（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（カルメル会）

対象：男・女青年信徒

2004, 2月8日（日）10:00am～4:00pm 了

6月5日（土）10:00am～4:00pm

11月20日（日）10:00am～4:00pm

2005, 2月8日（土）" "

黙想会：指導：星野正道師（カルメル会）\*対象：一般信徒（お弁当持参）

2004, 2月9日（月）10:00am～4:00pm 了

6月4日（金）10:00am～4:00pm

11月19日（土）10:00am～4:00pm

2005, 2月4日（金）10:00am～4:00pm

年の黙想会：指導：瀬戸勝介 師（イエズス会）\*対象、修道女

2004, 8月16日（月）5:30pm～8月25日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い \*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～200Pm)

瞑想の家 東光庵

指導：ヨハネ・ウマンス師（神言会）

\*詳細は電話で問い合せて下さい。

場所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

## コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

場所：東京都調布市下石原3-55-1

TEL: 0424-82-2012

FAX: 0424-82-2163

- \*当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。南口から徒歩20分  
タクシーで20分。下石原3丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。
- \*宿泊を希望されるかたは『友愛の家』にどうぞ。  
一泊朝食付き 3000円

## CWC (キリスト者婦人の集い)

講師：九里 彰 神父 (カルメル会)

テーマ：聖書に登場する女性の霊性

日程：2004,

5/11, 7/13, 9/28, 10/12, 12/14

時間：午前10:30～

会場：真生会館第一会議室

これまでのテーマは「アブラハムの2人の妻」「マルタとマリア」  
「ベタニアの女」「サマリアの女」「マリアの受胎告知」でした。  
今後どのようなテーマでしょうか、期待してお出かけ下さい。

## 坐禅会

月曜日：17時20分～20時10分

木曜日：18時～20時30分

場所：上智大学内クルトゥルハイム1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

## 接心 2004年度

### 関東

4月28日(水)20時30分～5月5日(水)14時

6月11日(金)20時30分～13日(日)14時

8月7日(土)20時30分～14日(土)14時

10月24日(金)20時30分～11月3日(水)14時

2005年2月26日(土)8時30分～27日(日)16時 上石神井5600円

秋川神冥窟  
1泊2400円程度

関西 5月29日(土)13時～30日(日)16時 宝塚市②

7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時 宝塚市①

連絡先 ① シスター田中 電話 0727-59-3742

② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先：

クラウド・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

## 京都教区・聖書深読黙想会

2004 年度

翌日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解読で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想会にお誘い合わせの上ご参加下さい。

- |     |           |              |   |
|-----|-----------|--------------|---|
| 1.  | 1月31日(土)  | 新井延和神父       | 了 |
| 2.  | 2月28日(土)  | 奥村 豊神父       | 了 |
| 3.  | 4月17日(土)  | 奥村一郎神父       |   |
| 4.  | 5月22日(土)  | 新井延和神父       |   |
| 5.  | 6月12日(土)  | 中川博道神父       |   |
| 6.  | 7月10日(土)  | 未 定          |   |
| 7.  | 9月18日(土)  | ペテロ・バーケルマン神父 |   |
| 8.  | 10月9日(土)  | 奥村一郎神父       |   |
| 9.  | 11月13日(土) | 新井延和神父       |   |
| 11. | 12月9日(木)  | 奥村 豊神父       |   |

場 所： 河原町カトリック会館6階

費 用： 各回 2500円

時 間： 午前10:00~午後4:00

持参品： 聖書・筆記用具・ノート

申込・問合せ：〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル  
河原町カトリック会館内 聖書委員会  
TEI：075-211-3484 FAX：075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

主催： 京都教区聖書委員会

# 真命山の靈性

黙想会

座禪と十字架の神秘

日時 3月26日(金) 17:00から

28日(日) 13:00まで

自然の中でキリストの復活を祝う

日時 4月23日(金) 17:00から

25日(日) 13:00まで



自然 神はすべてを造り、  
人の手に委ねられ

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで 祈り

静けさ 沈黙の中に神の  
言葉を聞く

信仰体験  
を分かち 交わり

10日間の黙想

日本の伝統文化に基づく靈性

日時 8月4日(水) 17:00から

12日(木) 13:00まで

\*\*\*\*\*

研究会

キリスト者とは宗教との対話その真意

日時 4月30日(金) 17:00から

5月2日(日) 13:00まで

\*\*\*\*\*

第6回 諸宗教平和の祈りの会

日時 2004年10月3日(日)

14:00~17:00

2004年度のご案内

祈りの集い

テーマ 聖人の祈りに学ぶ

1月 8日 聖トマス・アクイナス

2月 12日 日本の殉教者

3月 11日 十字架の聖パウロ

4月 22日 シエナの聖カタリナ

5月 13日 聖アルフォンソ

6月 10日 聖マルガリタ・マリア

と聖ファウスティナ

7月 8日 聖ベネディクト

9月 9日 聖フランシスコ

サレシオ

10月 14日 アビラの聖テレジア

11月 11日 福者三位一体の

エリサベット

12月 9日 十字架の聖ヨハネ

尚、個人、グループで黙想会、研修会など  
ができますので、ご相談ください  
宿泊は10名位迄可能です。

申し込み

〒 865-0133

熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

リーゼンフーバー講座・集い案内  
2004～2005年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館  
アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。  
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学7号館316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分  
●木曜日 18時～20時30分  
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。  
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ●4月28日(水)20時30分～5月5日(水)14時  
6月11日(金)20時30分～13日(日)14時 } 秋川神冥窟  
8月7日(土)20時30分～14日(土)14時 } 1泊2400円程度  
10月29日(金)20時30分～11月3日(水)14時 }  
2005年2月26日(土)8時30分～27日(日)16時 上石神井5400円  
●5月29日(土)13時～30日(日)16時 }  
7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時 } 宝塚市
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。  
但し、8月には24日のみ(上智大学内クルトゥルハイム聖堂)。  
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)
- 祈りの集い 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
4月17日、5月15日、6月26日、7月10日、8月21日、9月11日、10月16日、  
11月13日、12月11日、2005年1月8日、2月19日、3月19日
- 黙想会 6月5日(土)10時～6日(日)15時、  
9月18日(土)10時～20日(月)15時、11月27日(土)10時～28日(日)15時、  
2005年3月5日(土)10時～6日(日)15時：1泊4400円程度  
2004年8月22～29日、18時～21時 通う霊操(クルトゥルハイム2階)
- アガペ会 説明会と集い 下記の日 13時30分～18時 20代～40代の信者  
4月25日(日)、6月27日(日)：上智大学カトリックセンター  
10月9日(土)、2005年1月22日(土)：S.J.ハウス第5会議室
- クリスマス会 12月18日(土)16時30分～ 上智会館5階第6会議室 要申し込み  
ミサ 12月23日(火)14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)  
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

# リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2004～2005年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分  
 場所 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

## 各回のテーマ

- 4/ 2 信仰の道—人生の意味を問う
- 4/ 9 人生の道しるべ—聖書に信仰を求める理性
- 4/10 ミサ (18時、上智会館3階)
- 4/16 聖書の人間像—人間の現状と使命
- 4/23 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 4/30 ○休み
- 5/ 7 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/14 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/21 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 5/28 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/ 4 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/ 5-6 ●黙想会
- 6/11 救い主の役割—人類の待望
- 6/18 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/25 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/ 2 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/ 9 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/16 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/23 イエスの受難—その史実と意図
- 7/24 ミサ (14時、上智大学内 Kulturlaube 2階)
- 7/30 イエスの死—その救済的意味
- 8/ 6、13 ○休み
- 8/20 イエスの復活—今に生きるイエス
- 8/22-29 ●通う霊操 (18-21時)
- 8/27 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
- 9/ 3 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/10 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9/17 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9/18-20 ●黙想会
- 9/24 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/ 1 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10/ 8 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10/15 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 10/22 信仰の決断—支えられて生きる
- 10/29 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/ 5 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11/12 人間の弱さ—罪とは何か
- 11/19 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 11/26 愛の心—キリスト教の本質
- 11/27-28 ●黙想会
- 12/ 3 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/10 希望を持つ勇氣—未来に向かって歩む
- 12/17 霊の動き—福音による生き方
- 12/18 クリスマスのミサとパーティ (上智会館5階 第6会議室)
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kulturlaube 2階)
- 1/ 7 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉
- 1/14 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 1/21 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 1/28 結婚と独身—愛の道
- 2/ 4 信徒・司祭・修道者—誰もが召されている
- 2/18 仕事という人間の課題—社会に寄与して働く
- 2/25 人間の苦悩—悪とは何のためか
- 3/ 4 死—その実現と克服
- 3/5-6 ●黙想会
- 3/11 人生の完成—神の内に生きる
- 3/18 聖母マリア—信じる者の原型
- 3/25 ○休み
- 3/26 復活祭のミサ (18時、上智会館3階)



上智大学内 Kulturlaube 2階



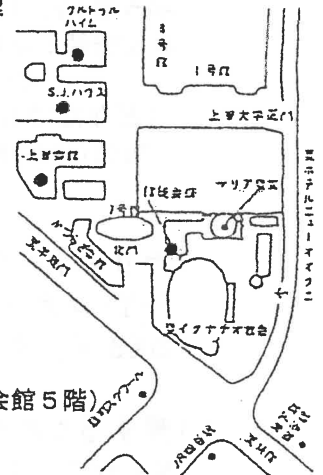
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2004～2005年

日時 第1・3火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

毎 回 の テ ー マ

- |                      |                                       |
|----------------------|---------------------------------------|
| 4/ 6 [人間]            | 神の似姿——理性と信仰                           |
| 4/20                 | 自由意志と時間——歴史における意義                     |
| 5/18 [神]             | 無限への問い——理性による神認識                      |
| 6/ 1                 | 世界の根源——神存在の確認                         |
| 6/ 5- 6              | ●黙想会                                  |
| 6/ 15                | 人格の目標——神経験の多様な形                       |
| 7/ 6                 | 「私は在る」——「彼」と「汝」としての神                  |
| 7/20 [人間への<br>神の関わり] | 神の創造的自由——世界に向かう神                      |
| 7/24                 | 感謝のミサ(2pm 上智大学内 Kultourハイム 2階)        |
| 8/ 3                 | ○休み                                   |
| 8/17                 | 自らを現す神—啓示の可能性と史実(上智大学内 Kultourハイム 2階) |
| 8/22-29              | ●通う霊操(6pm～9pm 上智大学内 Kultourハイム 2階)    |
| 9/ 7                 | 神の語りかけ——神の言葉の諸次元と聖書理解                 |
| 9/18-20              | ●黙想会                                  |
| 9/21                 | 将来への導き——自立した世界の中の摂理                   |
| 10/ 5 [イエス]          | 史的イエス——活動と生き方の特徴                      |
| 10/19                | 神の国——イエスの使信の新しさ                       |
| 11/ 2                | ○休み                                   |
| 11/16                | 受難による救い——イエスの救済的役割                    |
| 11/27-28             | ●黙想会                                  |
| 12/ 7                | 死からの命——復活の認識・経験・理解                    |
| 12/18                | クリスマスのミサとパーティ(4:30pm 上智会館 5階)         |
| 12/21 [聖霊]           | 神の内的現存——人間における聖霊の働き                   |
| 12/23                | クリスマスのミサ(2pm 上智大学内 Kultourハイム 2階)     |
| 1/18                 | 三位一体の神——救いの構造から神内の存在へ                 |
| 2/ 1                 | 御子の受肉——神の子と人の子                        |
| 2/15 [教会]            | 信仰者の共同性——教会の本質                        |
| 3/ 1                 | 教会の構造——その起源と機能                        |
| 3/ 5- 6              | ●黙想会                                  |
| 3/15                 | 母なる仲間——信者と教会の原型マリア                    |
| 3/26                 | 復活祭のミサ(6pm 上智会館 3階)                   |



## カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.312 (季刊)

2004年春号 「今日の靈性」

聖体＝キリストの過越の神秘(59)…高橋重幸

十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」(2)…九里 彰

イエズス 私の最愛のお方 思い出してください(10)…P.・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(4) …伊従信子

私の祈り一気が散る中でどう祈るか…J・マッカーフリー

三位一体のエリザベット(5) …伊従信子

音を求め続けて…森みさ

出会いー修道生活きのうきょうー(6) …奥村一郎

年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457

跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：

TEL03(5706)8356まで。)

「カリットへの旅 ーカルメル会の歴史」

P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、  
2003年、サンパウロ、定価(本体2500円+税)。

「愛するための自由 ー十字架の聖ヨハネ入門ー」

N・カミン著。山口女子カルメル会訳、2000年、ドン・ボスコ  
社、定価(本体1500円+税)。



上野毛。宇治。大分

## カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院(黙想)はカルメルの靈性を体験し、深めたい方のためのものです。黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

京都駅から JR 奈良線 「六地藏」下車徒歩15分

バス停「町並」(京阪バス)から循環「御蔵山」<sup>おくらやま</sup>に乗り「西住宅バス停」下車徒歩5分

870-1152

大分県大分市上宗方 1800-3

TEL 097-541-4012

FAX 097-541-4404

大分駅からバスで18分「明礪橋」<sup>あけがわらばし</sup>下車、橋を渡りすぐ右折徒歩8分

男子跣足  
カルメル修道会

## お 願 い

投稿くださるときには、次のようにしていただくと幸いです。

1. 締め切り 毎月10日
2. 原稿サイズ：B5 左右の余白：最低15mm
3. 「心の泉」のコーナーについては、随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
4. 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
5. 寄稿連絡は、九里<sup>くのり</sup>彰神父宛にお願いいたします。  
〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院  
Tel (03)3704-2171 Fax (03)3704-1764
6. 「霊性センター・ニュース」をより内容豊かなものとしてゆくために、これからも献金へのご協力をお願いいたします。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで郵送ご希望の月数分×220円切手または現金を送ってください。これには、封筒代が含まれています。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾4-21-11

Tel (045) 575-5722

### 編集後記

東京教区では、東京とケルンの両大司教区との友好50周年を記念した行事が行われる。ケルン教区からの援助で東京カテドラルを始め多くの教会や施設の建設が可能となったということであるが、日本援助の発端を知って驚いた。全土が廃墟と化した当時のドイツも、まだ復興の途上にあつたにもかかわらず、他国の苦しむ教会を助けようと東京教区援助を決定、まったく福音的な心から出た行動だったということである。フリングス枢機卿の言葉は、胸を打つ。「あるからとか、余力があるから差し上げるのでは、福音の精神ではありません」。

南北問題が叫ばれて久しい。富める国と貧しい国の衝突…。キリストは今も十字架の上で泣いておられる。 (P.九里)



